インタビューの
記録から

◎　研究授業は一人でやるものとは思っていません。研修主任としてできるだけ授業者に協力したいと思っています。特に検討会の事前・事後に個人的に授業者と話し合うことは重要です。話し合うことで、授業者の孤独感が解消されると思います。

◎　職員間の参観授業を増やすことで、職員一人一人が受け身にならず、前向きに考え、研修を「やらされている」という意識が解消されてきたように思います。

◎　職員間の参観授業が増えたことで、職員全員が研修に対して同じスタンスになり、職員間に「こんなプランがあるよ」「こんな実践がのっていたよ」「こんなワークシートを作ったよ」等の会話が生まれ、日常の授業の取組の中に研修が意識されるようになってきたと思います。

職員全員が力の付く研修をしたい

そこで　**一人一研究授業や職員同士で見合う参観授業を積極的に計画し、実行しましょう。**

たとえば

一人一研究授業

全職員に年１回以上の研究授業をお願いしています。導入当初は研究授業をやることに抵抗があった職員もいましたが、研修主任として、意識的に授業者に声を掛け、いつでも相談には乗りました。

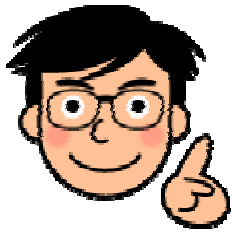
また、授業者が一人で全てを抱え込まないように配慮しています。学年やブロックでつくり上げていく授業も本人には勉強になります。

職員間の参観授業

職員間の参観授業は、必ず実施してほしいために年間指導計画に位置付けています。

「自習が増える」という理由で躊躇している学校もありますが、本校では毎月第４月曜日の６時間目を参観授業にしています。参観クラス以外は５時間で放課にし、職員が研修できる体制をつくっています。

研修主任一人だけが頑張る研修ではなく、みんなで子どもたちを育てていこうとする研修になってきた！



授業リフレクションの導入

授業研究会に授業リフレクションを取り入れてみました。授業リフレクションの最大の利点は「授業者本人の気付き」だと思います。次にやるべきことがはっきりしてきて、とても勉強になります。

また、進行役のプロンプターや板書係はいつも同じ職員にならないようにできるだけ多くの職員に経験してもらっています。

日常の気軽な相談

私の学校では日常的に放課後を利用して、授業についての話合いを心がけるようにしています。特に時間を設定しないで、ほんの数分の空いている時間を利用し、隣のクラスの先生と指導法や改善方法について相談しています。

一人で悩まないで、どんどん相談できるような職員間の雰囲気を作ることも研修主任の大切な仕事です。